

2017年度

自己点検・評価報告書

— 各部署の活動状況 —

山口芸術短期大学
自己点検・評価委員会
自己点検・評価実施委員会

保育学科

▷幼児教育コース

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 新しいディプロマ・ポリシーにもとづく養成課程を構築する。
- ② ブランド力を恒久的に維持するための現状分析と点検評価、それにもとづく改革を推進する。
- ③ 再課程認定への対応をスムーズに行う。
- ④ 学生やその保護者との信頼関係を構築、強化する。
- ⑤ 教職員が一体となった学生指導により、各学生の長所を伸ばす。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	授業数の削減および卒業研究の充実	授業数を減らし、学生がより主体的に学ぶことができる状況を整えつつある。また、卒業研究においては、これまでの学びを総合化し、他者とコミュニケーションを取りながら問題解決していく内容とした。最終的にはプレゼン用ソフトを使用した研究報告に取り組んだ。	4
②	学修成果を検証するためのアンケートの作成・実施	本学の養成内容の検証および保育現場の求める人材の把握のためのアンケートを作成した。過去10年の卒業生就職先へ依頼し、現在、集計結果を分析しているところである。	3
③	コース内FD研修の開催	コース専任教員（嘱託教員を含む。）を集め、再課程認定のコース内研修を実施した。同様に、非常勤講師にも研修を実施した。	4
④	保護者会への参加呼びかけ	特に1年生保護者の参加率が低かったため、チューターを通じて呼びかけた。結果的に、全体会へは98名が参加し、アンケートには9割強の方が有意義であったと回答した。	4
⑤	チューターの充実と、コース会議での情報共有	チューターにおいて、個別面談の時間を十分確保し、学生の様子・状況・指導等をコース会議にて共有しながら、全体として指導を進めたが、長所伸長については各教員個別の対応にとどまり、組織的な対応には至っていない。	3

	根拠資料の名称
①	シラバス、幼教コース教育課程及び授業科目名・内容の見直し資料他
②	学習成果の検証アンケート、保育現場の求める人材像に関するアンケート、依頼文書
③	教職課程コアカリキュラム資料（文科省）、保育士養成課程等の見直しについて資料（厚労省）他
④	保護者会レジュメ、アンケート集計結果他
⑤	チューター予定表、コース会議資料

3 来年度の取組事項

- ① 「保育士養成課程の見直し」と「教職再課程認定」とを見据えた教育課程を編成する。
 - ② 地域に根ざし、必要とされる保育者の養成を強化・推進する。
 - ③ 学修成果検証アンケートの集計結果を踏まえ、組織的に授業内容の改善を図る。
 - ④ 中四国保育学生研究大会の成功に向けた取り組みを行う。
 - ⑤ 学生・保護者との信頼関係構築を継続強化する。
-

保育学科

▷介護福祉コース

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 国家試験受験に向けて、2年間の効果的な授業の流れを考慮して、指導の徹底を図る。
- ② 利用者の尊厳を守るために介護実習においては、求められる人材養成をめざし、介護の原則（利用者本位、自立支援・自己選択、自己決定、生活の継続性など）を意識した教育を展開する。
- ③ 介護福祉士としての質の向上を目指すために、教養科目を充実させる。
- ④ 学生の表現力やコミュニケーション力を身に付けるために、芸術系科目を充実させるとともに、教職員間の更なる連携強化を図る。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	国家試験を見通した指導の徹底	各授業において、振り返りを重視した授業を展開するとともに、2年生は国家試験対策の時間を補講として実施し、重要項目の再確認を行った。	3
②	求められる人材養成を目指した教育	介護の原則を常に意識させながら実習を行うことにより、利用者の尊厳を守る取り組みに繋がっている。	3
③	教養科目の充実	平成29年度より、「郷土史」を取り入れ、「生活と福祉」「文書表現基礎」の内容を充実させることにより、介護福祉士としての豊かな人間性を身に付けさせることができた。	3
④	芸術科目を活かした授業の展開	音楽や造形科目の開講時期の変更や、授業内容の見直しなどにより、利用者とのコミュニケーション技術（手段）や信頼関係の構築、質の高い介護サービスの提供などに繋がった。	3
④	教職員間の連携	「介護レクリエーション理論・実技」においては、「介護実習指導」や「介護の研究」との連携を図りながら、スムーズな実習が行えるように授業を展開した。	3

	根拠資料の名称
①	介護福祉士過去国家試験問題集、介護福祉士国家試験予想問題集、重要事項のまとめ
②	平成29年度事例研究冊子、平成29年度介護実習要綱
③	カリキュラム・マップ、シラバス
④	カリキュラム・マップ、シラバス
⑤	平成29年度介護の研究冊子

3 来年度の取組事項

- ① 卒業到達目標に向けて、2年間の効率的な授業の流れを考慮しながら、指導の改善を図る。
 - ② 利用者の尊厳を守るために、3領域の連携を意識した授業展開を工夫するとともに、介護実習においては、介護の原則（自立支援）を意識した教育実践を継続する。
 - ③ 現場の求める介護福祉士としての資質の向上を目指し、施設と連携した実習に取り組む。
 - ④ 利用者の生活の質や介護サービスの質を更に高めるため、個々の学生の表現力やコミュニケーション力をより一層高め、身に付ける学習機会を創る。
-

芸術表現学科

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 社会の変化や保護者・生徒のニーズに応え、コースやカリキュラムを改善する。
- ② 各科目でディプロマポリシーの徹底を図り、伸ばす能力を明確にする。
- ③ 組織が円滑に機能するよう、業務の精選と効率化を図る。
- ④ チューター制を有効に活用し学生の個別指導を徹底する。
- ⑤ 地域との連携を図り、地域の活性化に寄与する。
- ⑥ アクティブラーニングによる授業を実施し、学生の主体的な学びを推進する。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	コース制の廃止	平成30年度から、コース制を廃止し学生に自分のキャリアパスを明確に持たせ、3つのフィールドの中から自由に授業を選択できるようにした。	4
②	ディプロマポリシーの徹底	ディプロマポリシーにある社会人としての基本的な学力やマナーの育成を全ての授業担当者に周知徹底した。	3
③	業務の精選と効率化	業務の効率化と円滑な運営を進めるため、教務と総務の二元体制をとったが連携が十分でなかった。業務の精選も不十分であった。	3
④	チューター制の有効活用と個別指導の徹底	各教員が、数名の学生の指導を担当することにしたので、個別の指導は徹底できた。特別指導が必要な学生が集中するケースもあり、今後の課題である。	3
⑤	地域連携	包括連携協定を締結した企業と、年賀状のデザインを制作・販売する企画を実施した。また、県内の企業と受託研究契約を結び共同事業を実施している。さらに、外部資金や学長裁量経費を活用し、高校生を対象に「音楽基礎講座」を実施した。	4
⑥	アクティブラーニングによる授業実践	「空間芸術表現演習」では、多くの学生が学年の枠を越えて主体的に企画運営から作品制作・発表まで取り組んだ。外部のコンテスト等に積極的に応募し、授業で作品制作に取り組み、各種の賞を受賞した。	4

	根拠資料の名称
①	大学案内2018、2018Restyle、教育課程表
②	29年度指導方針、非常勤講師意見交換会
③	学科組織、学科の業務分担
④	チューター担当表、三者面談計画
⑤	連携協定、年賀状デザイン制作、受託研究契約書、リーフレット、パンフレット
⑥	シラバス、発表パンフレット、空間芸術表現発表会プログラム、広告大賞、奨励賞

3 来年度の取組事項

- ① 新生芸術表現学科のディプロマポリシーに基づき、新カリキュラムへの円滑な移行を進める。
 - ② 地域との連携を一層推進し、地域の活性化に寄与する。
 - ③ 教職員の連携を図り、チーム力を向上させ業務の効率化と充実化を推進する。
-

学生部

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 更なる組織の機能性を発揮させるため事務組織の再編を実施する。
- ② 事務組織を充実するため、事務職員を採用する。
- ③ 大学の機能強化を推進するため、芸術表現学科の教育課程の見直しを図る。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	事務組織の再編	事務機能の効率化を図るため、入試広報課を学生部から事務部に配置換えし、事務部を2課体制とした。	4
②	事務組織の充実	事務部の学長企画室に担当職員を採用し、機能強化を図った。	4
③	芸術表現学科の教育課程見直し	教務課及び芸術表現学科と連携し、コース制からフィールド制に移行し、デザインと音楽の融合を図るとともに職業人力を身に付けさせる教育課程に見直した。	4
④	学生食堂の新規業者の選定	学生食堂の事業者が前期で撤退したことに伴い、後継業者を選定し後期から営業を開始した。	4

	根拠資料の名称
①	山口学芸大学山口芸術短期大学事務組織規則の一部改正について
②	採用手続き決裁文書
③	教授会資料、学科検討資料
④	後継業者との契約書等

3 来年度の取組事項

- ① 学生部内の配置換えにより機能強化を図る。
- ② 学生の福利厚生施設として売店の設置を検討する。
- ③ 修学支援システムの導入を検討する。

学生部

▷教務課

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 教職委員会と教務委員会規程内容の整理を行う。
- ② FD/SD委員会との連携を図る。
- ③ 学習成果の根拠資料を整える。
- ④ 成績評価とGPA評価を考える。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	委員会規程の整備	教職課程委員会、教務委員会規程について整理した。このことにより、このたびの再課程認定の課題について協議を重ね、共通理解に努められた。実務に追われるのが現状で、教務委員会規程の整理が遅れた。委員会規程の個々の業務については、滞りなく実施できている。	4
②	FD/SD委員会との連携	授業アンケート実施と、その後の授業改善報告書については、前向きな意見もあるが、そのフィードバックについて、FD委員会との連携ができなかった。	2
③	学習成果の根拠資料の整理	各学科独自での取り組みは、あるものの、教務課としての全体把握に至らなかった。	2
④	成績評価とGPA評価の検討	GPA制度の規程の整理をし、学生ハンドブックでの周知を図ることとした。	4

	根拠資料の名称
①	教職委員会規程、教務委員会規程
②	授業アンケート、授業アンケート後の授業改善に対するコメント
③	各学科の修学支援記録、ポートフォリオ等
④	学生ハンドブック、成績評価基準、GPA制度検討資料、GPA制度運用規程

3 来年度の取組事項

- ① 再課程認定に向けて、適切に対応する。
- ② 保育士養成課程見直しに係る教育課程の充実に向けて学部学科との連携を図る。
- ③ 教職課程における領域に関する専門的事項見直しに向けた検討に着手する。
- ④ FD・SD委員会との連携を強化する。

学生部

▷学生課

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 施設を含めた障害を持った学生の支援を充実させる。
- ② 駐車場を含む交通安全指導を行う。
- ③ 計画的な健康衛生支援を行う。
- ④ 学生自治会活動の規約等を整備する。
- ⑤ ハラスメント関係の予防と対策及び規約を充実させる。
- ⑥ 海外留学・渡航等に関する対応を充実させる。
- ⑦ 地域や他の大学との連携に努める。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	障がいのある学生への支援体制の充実	聴覚障害者に対する筆談対応の「耳マーク」設置等を行い学内組織も構築しつつある。	3
②	交通安全指導の徹底	警備員の配置、車通学オリエンテーション(年2回)、交通安全講習会の開催、教職員の立哨等(年2回)を行った。事故報告件数は8件(昨年度11件)であった。	4
③	健康衛生支援	学生及び教職員の健康診断や日々の対応等をさらに充実させた。また「対応マニュアル」「保健室だより」の作成によりインフルエンザ等の対応に効果があった。	4
④	学生自治会活動の規約整備	開学以来大幅な変更もなく現実と離れていた規約に着手し、会計のマニュアル等の整備を進めている。	3
⑤	ハラスメントの予防と対策	ハラスメントの多様化に対応するため、規則等の改正を行った。また、オリエンテーションにおいて、学生に資料を配布し、ハラスメントに関する注意喚起をおこなっている。	4
⑥	海外渡航等への対応の充実	海外渡航届の作成・提出を求めたことにより、学生の把握が可能となった。これから留学希望者等が増加することが見込まれるため、規約等の整備を検討している。	4
⑦	地域や他大学との連携強化	大学間では組織として「大学リーグ山口」「山口エコキャンパス」に参加・協力、また「県内大学高専学生支援連絡会」等に参加し、学生支援体制の整備について情報交換を行った。	4

	根拠資料の名称
①	「耳マーク」設置・事務部学生部カウンター/起案書
②	講習会資料、車通学の心得
③	救急・応急処置対応マニュアル、健康診断票、保健室だより、起案書
④	学生自治会会計報告、ピアリーダーズセミナー資料
⑤	学生ハンドブック2017の7 山口学芸大学・山口芸術短期大学ハラスメントの防止等に関する規則
⑥	海外渡航記録
⑦	各会議資料

3 来年度の取組事項

- ① 障害のある学生の支援を充実させる。
 - ② 学生自治会活動の規約等を整備する。
 - ③ 海外留学・渡航等に関する対応を充実させる。
 - ④ 地域や他の大学との連携に努める。
-

学生部

▷連携推進課

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 平成30年度の事業計画策定に向けた平成29年度自己点検・評価が円滑に行えるよう努力する。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	平成30年度の事業計画策定に向けた平成29年度自己点検・評価が円滑に行えるよう努力する。	来年度の事業計画策定の資料とするため、1月22日を自己点検評価報告書の第一次締切とし、全体の取り纏めを実施した。年度末までに変更があったものについては、再度提出を求め、最終版を作成した。	4
②	包括連携協定に向けた取組みを行う。	山口市（2017.9.27）及び株式会社ナカハラプリンテックス（2017.9.25）と包括連携協定を締結し、連携に向けた取組みの協議を開始した。	4

	根拠資料の名称
①	自己点検・評価委員会議事録 自己点検・評価実施委員会議事録
②	起案書、包括連携に関する協定書

3 来年度の取組事項

- ① 2019年度の機関別認証評価（短期大学基準協会）に向けて、本学の活動を整理しエビデンスの収集を行う。
- ② 連携推進課の業務を整理し、事務作業の簡略化を図る。

教育・保育支援センター

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 外部からの相談、講師派遣依頼への対応を行う。
- ② 夏期講座を実施する。
- ③ 夏期講座の参加者数を増加する対策について検討する。
- ④ 教育・保育支援センターのパンフレットを作成し、県内教育・保育関係機関へ送付する。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	外部からの相談、講師派遣依頼への対応	講師派遣依頼が8件あり、8名の教員が対応した。	4
②	夏期講座の実施	現職の教育者・保育者を対象とした「第28回夏期講座」を8月5日（土）に開催し、全体講演及び各講座合延べ96名の参加があった。	4
③	教育・保育支援センターのパンフレット作成と県内教育・保育関係機関への送付	地域に根ざす大学の社会的役割を果たすため、これまでのパンフレットの内容を見直し、県内の小学校・幼稚園・保育所をはじめとする教育機関に、最新の情報を提供した。	4

	根拠資料の名称
①	講師派遣依頼記録簿
②	パンフレット名「山口学芸大学・山口芸術短期大学 教育・保育支援センター」
③	パンフレット名「山口学芸大学・山口芸術短期大学 教育・保育支援センター 第28回夏期講座」
④	行事・計画伺「教育・保育支援センター主催 第28回夏期講座の開催」

3 来年度の取組事項

- ① 学外からの相談・講師依頼に対応する。
- ② 学内での相談受け入れの可能性について検討する。
- ③ 夏期講座の実施時期や内容を見直す。
- ④ 山口県健康福祉部子ども・子育て応援局からの、キャリアアップ講習会依頼について検討し、部分的にでも協力していく。

進路支援センター

▷保育職

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 進路について主体的に取り組むよう働きかける。
- ② 個別指導を徹底する。
- ③ 途中で挫折しないよう公務員希望者への支援に力を入れる。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	進路について主体的に取り組むための働きかけ	1年生への取組みとして4月に就職希望を記入する個人票を作成し、チューターとの個人面談を実施した。9月には保護者会で就職ガイドブックを配布して就職活動の実際について説明を行った。後期に保育職研究を3回実施し、そのうちの1回は保育職に内定した2年生4人（公務員試験合格者、幼稚園・保育園・施設内定者）から、自分の経験に基づいた就職活動についてのアドバイスをしてもらった。	3
②	個別指導の徹底	1年次よりチューターによる個人指導を繰り返し行い、入学当初の希望や意欲を失わせないように働きかけた。また、2年生には就職地区担当者を中心として進路相談、就職先の紹介、履歴書指導、小論文指導、面接指導などの個別指導を行った。	4
③	公務員希望者への支援の充実	空コマを利用して、希望者を対象に週1回の公務員試験対策講座を設け、指導を徹底した。また、目標を持って受験勉強を継続するために、3回の公立保育職模試を受験するよう勧めた。多くの学生が受験し、結果として過去最高の合格者8名を出すことができた。	4

	根拠資料の名称
①	学生個人票・2017就職ガイドブック・1年チューター後期予定表
②	学生個人票・進路指導計画表
③	2017授業時間割・模試一覧

3 来年度の取組事項

- ① 指導が効果的に行えるように、学生個人票と進路指導記録を改良する。
- ② 就職活動に主体的に取り組むよう働きかける。
- ③ 公務員試験対策の充実を図る。

進路支援センター

▷介護職

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 見学実習を行う。
- ② 卒業時にプラスαとしての資格取得を行う。
- ③ 実習先が就職につながるよう面談等を細かく行う。
- ④ 基本的な生活習慣を身につけるよう指導を行う。
- ⑤ 就職支援室との連携を図る。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	見学実習の充実	就職を意識し、複合型施設への見学を2年生全員で行った。また、学生個々の見学実習を行うことで就職への不安軽減を図った。	4
②	卒業時にプラスαとしての資格取得の奨励	同行援護従業者資格やアクティビティ・ワーカー資格取得を行った。これは山口芸術短期大学卒業生の付加価値となっている。	4
③	面談の充実	1年次より学生から、どのような施設・事業所に就職したいのかを折に触れ聞くことで、施設訪問時に役立てるとともに、学生の適性に関する情報を得ることができた。また、保護者会でそのことを情報提供した。	3
④	基本的な生活習慣を身につけるための指導の充実	利用者の生活を支援する介護福祉士は、基本的な生活習慣が重要であることから、今年度は環境整備に重点を置いて学生指導を行った。	3
⑤	就職支援室との連携強化	就職支援室や就職先からの協力で、平成27年度生の就職状況は把握できたが、介護福祉コースからの情報提供が十分ではなかった。	3

	根拠資料の名称
①	カリキュラム・マップ、シラバス
②	資格証明書
③	就職希望調査票、面談表
④	平成29年介護実習要綱、シラバス

3 来年度の取組事項

- ① 就職につながるよう見学実習の個別指導を充実する。
- ② 卒業時にプラスαとしての資格取得を働きかける。
- ③ 学生との面談等を細かく行い、希望就職先との連携を図る。
- ④ 基本的な生活習慣を身につけるよう指導を行う。
- ⑤ 就職支援室との連携を図る（ハローワーク訓練生への支援を含む）。

進路支援センター

▷一般職

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 企業との連携強化月間を設定し、新卒者の激励と雇用主側の要望を聞くことを目的に就職先企業を訪問する。
- ② キャリア支援の体系化を図るため、1年生対象のマナー講座、2年生対象の就職支援講座を実施する。
- ③ 「就職ガイドブック」の見直しを図り、活用を促進する。
- ④ 卒業生対象の就職支援に係る相談体制を整備する。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	新卒者の就職先企業訪問	6月を企業との連携強化月間として新卒者の就職先企業をすべて（県外一社を除く）訪問し、卒業生を激励するとともに企業側の要望を聴き取った。併せて企業対象のアンケートも実施した。	4
②	体系的なキャリア支援体制の基盤づくり	1年生対象のマナー講座、2年生対象の就職支援講座をそれぞれ実施し、体系的なキャリア支援体制の基盤づくりを行った。	4
③	「就職ガイドブック」の見直しと、活用の促進	「就職ガイドブック」を全面的に見直し、学生の実態や要望を踏まえた本学独自のガイドブックを作成し、全学生に配付・活用した。	3
④	卒業生対象の就労支援に係る相談体制の整備	相談内容の秘密保持ができる相談室を開設し、卒業前セミナーや新卒者同窓会等で相談を呼びかけた。ガイドブックにも記載し、利用を働きかけた。	4

	根拠資料の名称
①	新卒者就職企業面談記録、企業アンケート集計
②	1年生対象マナー講座、2年生対象就職支援講座実施要項およびアンケート集計
③	2017就職ガイドブック
④	各年度就職相談カード

3 来年度の取組事項

- ① 進路支援センターや学生就職支援委員会の組織や業務を見直し、キャリア支援体制を充実させる。
- ② 学生にとって就職活動の満足度が高まる支援を行い、就職率100%を達成する。
- ③ キャリア教育とタイアップし、実効性の高いキャリア支援を行う。
- ④ 「就職ガイドブック」を実態に合わせて使いやすいものに改訂し、活用の促進を図る。

学術情報センター

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 図書館と情報教育支援センターを束ねる機関として学術情報センターを設置する。
- ② 上位機関としての学術情報センター規則を整備する。
- ③ 図書館及び情報教育支援センターの活動支援を行う。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	学術情報センターの設置	独立に活動していた図書館と情報教育支援センターの連携協力を図るため、両者を束ねる学術情報センターを新たに設置し、共同開催の会議体を整備した。	4
②	学術情報センター規則の整備	図書館と情報教育支援センターの上位機関として、学術情報支援センター規則の整備を検討し、準備を進めている。	2
③	図書館及び情報教育支援センターの活動支援	図書館委員会メンバー及び情報教育支援センターの活動を支援するための連絡調整機能とし、学術情報センター運営委員会を必要に応じて開催した。	4

	根拠資料の名称
①	学術情報センターの設置を確認できる運営委員会資料（学則等）
②	学術情報センター規則（整備途中）
③	学術情報センター運営委員会議事メモ

3 来年度の取組事項

- ① 学術情報センター規則及び学術情報センター運営委員会規則を整備する。
- ② 学術情報センター運営委員会を定期的（2ヶ月に一度程度）に開催する。
- ③ 情報基盤整備に関する計画・指針を決定する（ネットワーク速度、同時接続数、Windows10への移行等）。
- ④ 修学支援システム（教務、学生、入試等）の整備計画を策定し実施する。
- ⑤ 新図書館への移転を支援（予算面、人事面）する。

学術情報センター

▷図書館

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 新図書館活用の活性化に向けた基盤づくりの推進：
アクティブ・ラーニングコーナーやグループ学習室等の効果的な活用方法の検討を行う。
- ② 新図書館活用の活性化に向けた基盤づくりの推進：
図書館検索OPACを周知する。
- ③ 他の図書館等との連携を推進する。
- ④ 山口県立山口博物館におけるML連携展示へ参加する。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	新図書館活用の活性化に向けた基盤づくりの推進	アクティブ・ラーニングコーナーやグループ学習室等の効果的な活用方法を検討して、利用並びに館内での飲食に係る申合せ事項を作成した。	4
②		図書館システムのバージョンアップにより、OPACの操作性を向上させた。それに伴い、学生がより理解しやすい利用方法を検討し、学生掲示板等により周知した。	3
③	他の図書館等との連携	山口市立山口中央図書館と相互返却利用を開始し、1年間の利用冊数は、255冊（H30. 3. 31日現在）であった。	3
④	山口県立山口博物館におけるML連携展示への出展参加	保育学科・幼児教育コースと芸術表現学科の学生による共同制作絵本、学芸大学卒業生による創作絵本、これまでの定期演奏会のポスターや組曲「吉田松陰」の楽譜等を展示し、芸術とともに歩んできた本学の歴史を紹介した。	4

	根拠資料の名称
①	学生ハンドブック掲載用草案
②	『図書館の検索方法』
③	平成29年度月毎相互返却回数表
④	ML連携パンフレット「やまぐちの大学」

3 来年度の取組事項

- ① 新図書館の移転に向けた基盤づくりを推進する。
- ② ML連携展示による図書館活用への動機付けを行う。
- ③ 学生の図書館活用の活性化を図る。
- ④ 山口市立山口中央図書館等との連携を推進する。

学術情報センター

▷情報教育支援センター

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① サイバーセキュリティの確保に向けた取組みを継続して実施する。
- ② アクティブ・ラーニングへのICT等を活用した授業の活性化に向け関係委員会との連携を図る。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	サイバーセキュリティ確保にむけての情報共有	他の教育機関等で発生した情報セキュリティに関わる事故を周知し、本学の情報セキュリティ事故の未然防止を図った。	4
②	教員に対するアンケートの実施	常勤教員に対し、アクティブ・ラーニングを目指した教育・研究における情報機器端末使用に関するアンケートを実施し、その結果を分析した。	3
③	情報端末機器の整備	アクティブ・ラーニングへの対応として英会話学習ソフトを備えたパソコンの整備を行った。また、プリンタ、コピー機を設置し、利便性の向上を図った。	3
④	FD・SD委員会との連携強化	2月実施の本学FD・SD研修会においてアクティブ・ラーニングへ向けたICT機器活用について話題提供を行った。	3

	根拠資料の名称
①	電子掲示板（サイボウズ） 掲示内容
②	アンケート結果概要
③	FD・SD研修会資料（2018.2.27.実施）

3 来年度の取組事項

- ① サイバーセキュリティ確保の取組みを継続して実施する。
- ② アクティブ・ラーニングへ向けた情報教育支援のための設置機器の効果的な活用方法を検討し、関係委員会との連携を図る。

事務部

▷事務課

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 5月まで予定されている第3期工事残工事（外溝部分）の円滑な取組みを行う。
- ② 平成29年度に予定されている第4期工事（図書館移設工事）に向けた取組みを強化する。
- ③ より円滑な教育活動に向けて29年度の設備充実計画を立てる。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	第3期工事残工事（外溝部分）の円滑な取組み	工事業者・設計管理業者及び学内との連携を強化し、工程どおり外溝工事を完了した。また追加の中庭改修工事についても予定どおり完成した。	4
②	平成29年度実施予定の第4期工事（図書館移設工事）に向けた取組み	図書館運営委員会及び各部署との連携を強化し、実施設計を終えて入札を実施した。しかし、業者の諸事情により入札不調となり、執行を見送り、次年度に延期した。	3
③	平成29年度の設備充実計画について	各部署からの意見集約後、副学長を中心とした学生部・事務部の検討メンバーが計画内容の精査を行った上で適切に執行した。	3

	根拠資料の名称
①	3期工事竣工図面
②	図書館改修工事図面
③	設備充実計画資料

3 来年度の取組事項

- ① 平成30年度に予定されている第4期工事（図書館移設・改修工事）に向けた取組みを強化する。
- ② 図書館工事等を踏まえてより充実した教育活動に向けた30年度の設備充実計画を立てる。
- ③ 学内施設の光熱水費削減に向けた取組を強化する。（節電・節水の取組）
- ④ 経理業務に関する改善を行う。

事務部

▷入試広報課

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 接触者データベースの運用開始：
大学・短大共に接触者のデータを一元管理し、戦略的な募集活動を行う。また、接触者情報と高校訪問情報を連動させることで、外回りの活動を効率化する。
- ② 広報ツール・媒体の改良：
「山口芸術短期大学案内」の一部見直しとセールスポイントを明確にした広報を展開する。
- ③ オープンキャンパスの見直し：
新校舎の完成を受けて、プログラムおよび実施方法の見直しを学科と共に行う。また、オープンキャンパス来場者の出願率を上げる工夫を多角的に検討、実施する。（データベースの活用等）
- ④ インターネット出願の検討：
全国の私立大学の約55%がネット出願に移行している現状を踏まえ、本学でも実施に向け検討を始める。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	接触者データベースの運用開始	『アクセスオンラインシステム』の運用を開始したことで、これまで分散していた接触者データを一元管理することが可能となった。これにより資料発送の時間短縮、接触者履歴の見える化、高校訪問時の情報把握と提供等が格段に効率化された。	4
②	広報ツールや各種媒体の改良	芸術表現学科のカリキュラム大改訂に伴い、それを伝えるべく大学案内を大幅に変更した。また、サブパンフやホームページに補強ページを作成するなどして、変更点を解りやすく伝える工夫を行った。	3
③	オープンキャンパスのプログラムと実施方法の見直し	全体会を実施したり、低学年用のプログラムを用意したり、キャンパスツアーを複数回実施するなど、各回毎に行ったアンケートの集計結果を参考に、可能な限り来場者のリクエストに応えるようなプログラムを学科に提案し、実施した。その結果、来場者数の延べ数は前年度より下回ったが、実数は増加し、満足度も向上した。また、現時点で終了している2018年度の推薦入試におけるオープンキャンパス参加者の出願率も幼教、芸表共に約6%アップした。	4
④	インターネット出願の検討	ネット出願への移行については、全国及び近隣大学の状況から避けられない時期にあるため、代表的なシステムを有する3社に声がけをし、システムの比較検討を行った。その後、学内の複数の委員会で検討をし、2019年度入試からの導入に向け本格的に準備を始めることとなった。	3

	根拠資料の名称
①	アクセスオンライン上で閲覧できるデータベース、高校訪問スケジュール等
②	山口芸術短期大学案内2018、芸術表現学科サブパンフレット (Re Style)、本学Webサイト
③	オープンキャンパスプログラム、アンケート集計結果、総括表等
④	ネット出願資料一式、見積書等

3 来年度の取組事項

- ① インターネット出願の導入：
2019年度入試からトラブルなくネット出願に移行できるよう、学内の作業（システムの設計、データの移行、説明書の作成、募集要項の変更等）及び受験生への告知（説明会の実施等）の両面から準備を徹底する。
- ② 情報発信ツールの見直しと改善：
2015年にオフィシャルサイトを全面リニューアルして丸3年が経過。ユーザーの閲覧環境が益々スマホ主流になったことに伴い、サイトの部分的な見直しを行う。同時に、SNSを活用した情報発信を強化する。
- ③ アクセスオンライン（接触者管理システム）の活用：
接触者データを多角的に分析したり、様々な条件でのクロス集計をするなどシステムをさらに活用し、より戦略的な募集活動を行う。
- ④ 大学・短大統合学生スタッフの立ち上げを検討：
現在、大学・短大、さらには学科コース別に活動している学生スタッフを統合した組織を立ち上げ、学生たちを軸としたオープンキャンパスが実施可能か検討を始める。

3 来年度の取組事項

- ① 組織の維持・安定化を図るため、危機管理体制を強化する。
 - ② 各種補助金の獲得に向けた取り組み・調整を行う。
 - ③ I R機能を強化し、データの蓄積を図る。
-

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① FD研修会を年間3回程度実施する。
- ② SD研修会を年間2回程度実施する。
- ③ 全学的な取組として授業の相互参観を実施する。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	FD研修会の実施	多くのFD・SD研修会を開催し、教職員の資質能力の向上に役立てることができた。平成29年度実施の研修会は以下のとおりである。 2017. 4. 20及び27 「平成29年度新任者研修」…a 2017. 5. 29 FDSD研修会「教育研究に係る学内研修会」…b 2017. 7. 18 FDSD研修会「芸術表現学科の改革」…c 2017. 8. 3 FDSD研修会「教職課程コアカリキュラムについて」…d	4
②	SD研修会の実施	2017. 8. 9. FDSD研修会「アクティブラーニングにおける諸問題の解決方法を探る」…e 2017. 9. 28. FDSD研修会「経営改善計画等研修会」…f 2017. 10. 19. FDSD研修会「高大接続改革における入試改革 大学に必要な視点とは」…g 2018. 2. 27. FDSD研修会「大学の魅力づくりと授業改善」…h	
③	授業の相互参観の実施	実施を呼びかけ、年度末までに7件の実施報告があった。	3

	根拠資料の名称
①	起案書 (a, b, c, d, f, gは学生部・事務部起案、e, hはFDSD委員会起案)
②	
③	授業の相互参観の記録

3 来年度の取組事項

- ① FD研修会を年間3回程度実施する。
- ② 全学的な取組として授業の相互参観を実施する。
- ③ SD研修会を年間2回程度実施する。